

研修タイムテーブル(案)【事業マネジメントコース モニタリング・評価編】

視聴覚教材			
時間	内 容	方法	ねらい
0:10	研修の内容と構成の説明 講師の紹介		
0:15	事業計画表を用いた事業管理(復習)	講義	・事業マネジメント基礎編の復習
0:15	指標の取り方の詳細定義	講義	・プロジェクトが効果を出しているかどうかを知るためには、PDMに書かれている指標の詳細定義がされるべきであることを知る。指標の詳細定義をするために、論理の再構築と指標のあいまいさをなくす作業を体験する。それによって、どのくらいの精度を目指すのか知る。
0:10	指標のモニタリング	講義	・指標をモニタリングするには多くの労力がかかるかを知り、指標を厳選する必要があることを知る。また、指標のモニタリングをすることによる効果(CPの成長等副次的なものも含む)について知る。
0:30	WBS (Work Breakdown Structure)の作成	講義	・モニタリングの基本となるWBSについて知る ・WBSがスケジューリング、見積もり、人員配置などにつながることを知る ・WBS作成演習の進め方について理解する
0:30	リスクモニタリング	講義	・プロジェクトの実施段階の中でも、特に「実施開始後、間もない時期」がマネジメントの観点から極めて大切であることを知る。この時期に、WBS作成だけでなく、指標の詳細定義や予見されるリスクの抽出が行われるべきであることを学ぶ
0:30	進捗確認に基づく計画修正	講義	・実施されているプロジェクトによく起こる遅れへの対応について学び、計画を修正する能力を高める。 ・軌道修正演習の進め方について理解する
0:20	事業計画の改訂	講義	・プロジェクトの要約や指標を実施フェーズ中に修正しなくてはならないことが多いことを知る ・草の根事業では実施計画レビューという事業計画の見直しが行われることを知る
0:25	評価の手順 評価グリッドの作成	講義	・JICAの技術協力(草の根を含む)などでは、DAC6項目に沿った事業評価が行われていることを知る。またその6項目の内容をについて学ぶ ・演習の進め方について理解する
0:15	評価項目別の価値判断 グッドプラクティス・教訓・提言の抽出	講義	・教訓・提言の意味と、それらの活用される方を知る ・軌道修正演習の進め方について理解する
オンラインワークショップ			
9:30 ~ 11:30	WBS作成の続き スケジュール作成	グループ ワーク	・活動やサブ活動には「調査」「企画」「準備」本実施「モニタリング」「評価」といった典型的な技術移転の流れがあることを知ったうえで、スケジューリングをする有用性に気づく。 ・他のグループの発表を聞いて、他のアウトプットの詳細計画について学び、WBSの全体像を把握する。
11:30 ~ 11:40	休憩		
11:40 ~ 12:40	進捗確認に基づく計画修正	グループ ワーク	・実施されているプロジェクトによく起こる遅れへの対応について学び、計画を修正する能力を高める。
12:40 ~ 13:40	昼食		
13:40 ~ 14:30	評価グリッドの作成(穴埋め)	グループ ワーク	・DAC6項目に沿った評価グリッドの一部を作ってみることで、留意する点について知る。自分で事業を評価する際の不安を軽減する
14:30 ~ 14:40	休憩		
14:40 ~ 15:40	事実の確認 評価項目別の分析・判断	グループ ワーク	・DAC6項目の価値判断・根拠・要因分析が出来るようになる
15:40 ~ 15:50	休憩		
15:50 ~ 17:00	グッドプラクティス・教訓・提言の抽出	グループ ワーク	・教訓・提言の意味と、それらの活用される方を知る
17:00 ~ 17:10	休憩		
17:10 ~ 17:30	全体ふり返り 質疑応答	オープン ディスカッション	・習った知識や技術の中で、どの部分を特に活用したいと思ったか。あるいは、実践で活用することをイメージした際の不安を出し、意見を出し合うことで、活用へのハードルを下げる